

新しい国際学術雑誌"Forest Ecology and Management"の発行

誌名	日本林學會誌 = Journal of the Japanese Forestry Society
ISSN	0021485X
著者名	佐藤,大七郎
発行元	日本林學會
巻/号	58巻4号
巻号補足	
掲載ページ	p. 150-150
発行年月	1976年4月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター

Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



 雑 録

 新しい国際学術雑誌 “Forest Ecology
and Management” の発行

佐藤大七郎**

これまで林学の世界には、林木育種の専門誌 “Silvae Genetica” をのぞいては、特定の分野をとりあげた国際的な学術雑誌はなく、研究発表はそれぞれの国の林学会あるいはそれに相当するものが出している、林学全般にあたる雑誌にたよることが多かった。林学の研究がさかんになり、国際交流がつよまり、林学自身も木材採取業から脱皮して多目的利用を考えた森林施業にかわってきた。これらをふまえて、森林施業をとりあつかった国際的学術雑誌の必要の声がたかまっているが、このたびオランダの Elsevier 出版社から “Forest Ecology and Management” という雑誌が出ることになり、1976 年の前半に創刊号を出す計画で原稿をつのっている。

この雑誌のあつかう範囲は：天然林および人工林の生態の基礎的研究とその森林施業への応用、施業と保全に関する天然林および人工林の動植物相、造林と保育、森林の土地利用計画、施業計画とその経済、生長論および収

穫学、伐木集材作業の生態的影響、病虫害および森林保護の生態的な面、自然保護地区の施業、山火事、森林レクリエーション、景観としての森林、困難な地域の環境としての造林、リモートセンシングを含む森林資源調査技術、電算機および数学モデルの林業における応用、新しい技術の森林および林地におよぼす影響、環境汚染の森林に対する影響、森林施業の環境におよぼす影響、森林政策（たとえば伐採と蓄積の規整、森林施業計画決定への公衆の参加など）、林業に関する社会科学的研究などと、多方面にわたっている。

国際的に関心をもたれる内容の水準の高い論文をもとめているが、国際的という意味には、一国あるいは一地方での調査にもとづくものでも、その方法と結果、結論や展望がひろくあてはまるものもふくんでいる。編集長は L. ROCHE 教授 (Univ. College of North Wales) で、国際的に組織された編集委員会がある。用語は英語で、論文の紙数にきまりはないが、その紙数が適当かどうかは編集側で判断する。原稿の種類は、原報、特定の課題の総説、短報、一般の総説、討論、掲載論文に対する意見、巻頭言、書評および必要なニュースである。

はじめのうちは季刊で、1冊 80~100 ページを予定しているが発行回数は原稿のあつまりかたと発行部数に応じて増やしてゆく方針である。特定の主題を各方面からあつかう特集も考えられている。定価は Dfl 103+12 (送料等)=Dfl 115 (≒14,000 円) である。論文の送り先は

Editorial Office, “Forest Ecology and Management,”
P.O. Box 330, Amsterdam, The Netherland

* Taisitiro Saroo: A new international journal “Forest Ecology and Management”

** 東京大学農学部 Fac. of Agr. Univ. of Tokyo, Tokyo 113